



## ゴムには、その伸縮する動きが鍵になる。

六菱ゴムは、機能性と多様性に特徴を持った商品を、提供し続けます。



六菱ゴム株式会社

代表取締役社長 和田剛二

メーカーは取り扱う製品性能を完全に把握する事が重要です。製品を十分に理解し、その特性を学ぶことが出来た時、更に違う上のレベルに進むことが出来る。

日本企業の六菱ゴム株式会社は、100年間、ゴムという素材に取り組んできました。その順応性に対応の速さで称賛された理由は、多くの教訓を得て柔軟な対応を行った事により、企業から信頼を頂いていると言えるでしょう。

これは、材料開発～設計～性能確認試験～製造まで、一つの工場内で完結できる生産体制があったからこそ可能である。同社は、鉄道、造船、土木、上下水、エネルギー、鉄鋼などのさまざまな分野に、数えきれない特許製品を提供しています。

この成功の秘訣はその高い性能と耐久性にあります。

「ゴム製品には、ガスや細菌の封じ込め、放射能の遮断、ベアリングのオイルシールやダストシール、振動

を防ぐ防振ゴムに至るまで、多種多様です」と和田剛二社長は述べています。「六菱ゴムは、伸縮するゴム素材を扱っています。私たちは、非常にニッチな市場に特化したオンリーワンの製品を提供しています。これは、一貫生産体制による俊敏性のある（アジャイル）企業だけが作ることができる戦略です。同社の最も重要な製品の1つに、災害対策商品があります。2011年、東北地方太平洋沖地震とそれに続く福島原発事故の後、製品の売上はエネルギー業界の動向の影響を受けました。それ以降、災害対策商品の開発に取組みました。

台風、洪水から身を守る為のシェルカバーと津波から建屋を守るシールカバー製品の需要が増加しています。又、内外圧対応の新しいシールドア製品も開発しました。

「これは、自然災害から原子力施設を守り、安全性向上に貢献したと言える」と和田剛二社長は述べ、「地震、落雷、台風、津波から守る製品を開発し、インフラの老朽化に伴う課題を解決する商品開発を行っていきます」と付け加えました。未来を見据え、新しい計画や発明をする六菱の能力は、

過去100年間の豊かな歴史の上に築かれています。

1922年に神戸で設立された同社の黎明期に、日本ヴィクトリック社の要請により、英国Vicalticの技術者が

100years of technology that continues to support



来日し、ゴム技術を学んだ事は強力な技術のベースを築くのに役立ちました。それ以来、ゴム技術に関する独自の研究を進めてきました。日本の鉄道、インフラ、鉄鋼、医薬、原子力発電所用部品の開発に着手、「私たちは今、創業100周年を迎え、このニッチな分野で100年分の知識を持って取り組んでいます」と和田氏は振り返ります。

「私たちは一貫生産体制を有する俊敏性（アジャイル）のある会社であり、製品の専門知識と技術を磨き続けています。」  
和田剛二

「過去100年間、私たちは新しい技術や製品を生み出してきましたが、これは私たちの基本でした。私たちは一貫生産体制を有する俊敏性（アジャイル）のある会社であり、製品の専門知識と

技術を磨き続けています。六菱の製品は世界中で使用されており、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北米、オーストラリアへの販売実績があります。同社は、さらなる国際的な成功を目指して、次の100年を始める予定です。

「将来を見据え、これらの市場で存在価値を示してゆきたい」と和田氏は明かした。さらに「私たちはこれからも発展の精神を貫き、ゼロから創造することをモットーに、日本のモノづくり製品を世界に紹介していきたい」と付け加えた。

